

2. 調査結果の概要

(1) 商圈と買い物行動

県内には2つのエリアに8つの商圈が存在。買い物の旧高知市への一極集中傾向は続きながらも、大型店の立地等により香美圏域及び安芸広域圏の市町村から野市町への流入が増加したこともあって、テンポが鈍化

県内商圈は2つのエリア（旧高知市中心と旧中村市・宿毛市中心）からなり、その中で8商圈に区分される。県境の一部市町村を除き概ね閉鎖商圈に近い。

今回調査では、これまで独立的な商圈とみられてきた室戸商圈と土佐清水商圈が、室戸市は安芸商圈に、土佐清水市は中村商圈に包含された。また、嶺北商圈も高知商圈に包含され、高知県の商圈構造は2エリア11商圈から2エリア8商圈へと変化した。旧高知市への一極集中の傾向は引き続きみられるが、これまでに比べて比率の上昇幅は小さい。

旧高知市への一極集中傾向を緩和している要因として、野市町が周辺市町村からの購買力を吸引する力が高まっていることがあげられる。香美商圈や安芸商圈に属している市町村においては、これまでは圏域内での流出入のほかに旧高知市への流出がみられてきたが、近年これらの市町村から野市町内に立地する複合的な大型店への流入増が目立ってきている。

回答者の4割は買い物先が変化。大型店新設などで地元以外での買い物が増加

ここ5年間の買い物先が変化したのは、地元での買い物増加が11.6%、地元以外での増加が28.6%で、買い物の広域化が進んでいる。特に若い年代ほど変化が大きく、広域化が進んでいる。

新たな大型店が出店することによって、小売商店からの移行ばかりでなく、既存の大型店から新たな大型店への買い物先の乗り換えがあると推定される。

今後増えそうな買い物先は大型店、次いで直販所、ディスカウントストアなどが増加する見込み

今後増えそうな買い物先は大型店がすべての年代で高く、次いで直販所、ディスカウントストアなどである。

20代から30代の若い年代ほど、ディスカウントストア、インターネットによる通信販売、大型専門店、コンビニエンスストア、県外に出かけての買い物が増加する見込み

で、買い物先はさらに多様化する傾向である。

一方、50代以上の年代では、地元の商店を利用するという回答が多い。また、直販所は50代と60代を中心に年代の高い方がよく利用している。比率は低いですが、移動販売や宅配も年代が高いほど利用する比率が高い。

(2) 買い物満足度と買い物意識

買い物満足度が高まったのは全体の1割強で、それ以上に低下したという回答者が多い。年代が高いほど、また、都市部よりも中山間地域で、満足度が低下

全体では、買い物満足度は「変わらない」という回答が70.6%を占める中で、「高まった」(11.8%)よりも、「低くなった」(16.5%)という回答の方が多い。

どの地域も「高まった」よりも「低くなった」という回答の方が多い。なかでも、安芸広域圏は「低くなった」が21.9%と最も高く、「高くなった」との割合の差も13.2ポイントと最も大きい。

20代から30代では買い物満足度が「高まった」が「低くなった」を上回っているが、40代よりも上の年代では逆に「低くなった」が上回っている。

買い物で重視する項目は、圧倒的に「品質・鮮度」「価格」、次いで「品揃え」「健康・安全性」で、さらに「店の近さ」「店の信用・なじみ」と続く

買い物で重視するようになった項目は、「品質・鮮度」(64.4%)と「価格」(64.0%)が60%を超えており、これらに「品揃え」(40.2%)、「健康・安全性」(34.1%)と続き、「店の近さ」(21.5%)、「店の信用・なじみ」(19.5%)となっている。

「価格」は30代をはじめ低い年代で「品質・鮮度」は50代を中心に高い年代で、比率が高くなる傾向がみられる。また、「品揃え」は年代が低いほど、「店の近さ」や「店の信用・なじみ」は年代が高いほど、比率が高くなる。

「品質・鮮度」と「健康・安全性」は女性の方が男性よりも比率が高く、そのほかの項目については、男性の方が女性よりも高い比率となっている。

地元の商店街や商業に望まれることは、「品揃え」「価格」が高い比率で、「魅力ある個店」「駐車場・駐輪場」「雰囲気」と続く

地元の商店街や商業に望まれることは、「品揃え」(41.3%)と「価格」(38.5%)の比率が高く、これらに「魅力ある個店」(27.6%)、「駐車場・駐輪場」(25.9%)、「雰囲気」(23.3%)が続く。

20代から60代までは「品揃え」と「価格」が一、二位であるが、70代以上では「価

格」「品揃え」の順となっている。第三位は、20代と50代では「魅力ある個店」、30代と40代では「駐車場・駐輪場」、60代と70代以上では「雰囲気」となっている。また、20代では「大型店」(22.1%)や「コンビニエンスストア」(11.8%)の比率が他の年代よりも高く、50代と60代では「個店の努力」が20%を超えている。

一、二位の「品揃え」と「価格」は男女とも同じであるが、いずれも女性の方が男性よりも比率が高く、第三位は男性の「駐車場・駐輪場」に対して、女性は「魅力ある個店」となっている。

あれば利用したいサービスは「宅配」が約3割、これに「移動販売」が続く

あれば利用したいサービスは、「特になし」が51.0%を占める中で、「宅配」が29.2%と最も高く、「移動販売」が16.3%で続く。

30代を中心に若い年代では宅配サービスの希望が多く、年代が高いほど「移動販売」の比率が高くなっている。また、70代以上では「買い物代行サービス」(14.4%)と「御用聞き」(10.6%)が10%を超えている。

「宅配サービス」を利用したい人の比率は男性の方が女性よりも高く、「移動販売」は逆に女性の方が男性よりも割合が高い。

(3) インターネットを利用した買い物

家庭でのインターネット利用者は約3割、インターネットを利用した買い物経験者も3割近くで、この5年間でいずれも20ポイント以上割合が高まっている。

家庭でインターネットを「利用している」人は29.8%で前回調査(8.6%)に比べて、21.2ポイント上昇している。インターネットで買い物をしたことが「ある」人は28.8%で、前回調査(5.7%)に比べて、23.1ポイント上昇している。

「利用している」は年代が低いほど割合が高く、「買い物の経験」も30代を中心に年代が低いほど割合が高い。年代の高い方でも5年前に比べると、利用、利用希望、経験とも割合が高くなっており、高年齢層にも普及してきている状況がみられる。

インターネットを利用した購入で多いものは「ファッション・小物・雑貨」「チケット・トラベル」「本・音楽・映像」など

インターネットを利用して購入したもの、したいものは、「ファッション・小物・雑貨」(53.0%)、「チケット・トラベル」(40.5%)、「本・音楽・映像」(35.5%)の順であ

る。これらに「各地の特産品」(21.7%)、「飲料・食品」(20.0%)、「パソコン・ソフト・家電」(18.6%)が20%前後で続く。

(4) 移動販売の利用

移動販売の巡回は「来ている」が4割弱で、旧高知市以外の地域で「来ている」という割合が高い

移動販売の巡回については「来ている」「来ていない」がそれぞれ38.1%、39.1%。旧高知市以外の地域で「来ている」という割合が高い。

移動販売を利用している人は15.5%。旧高知市以外の地域で利用している割合が高い。移動販売の不満な点は「品揃え」「時間帯」で、これに「価格」が続く。

今後移動販売を利用する見込みについては、25.2%が利用したいと答えている。

(5) 新規創業の希望

新規創業を希望する人は1割で、年代が低いほど割合が高い

創業などの希望は全体で10.0%、年代が低いほど割合が高く、20代では20.8%となっている。希望業種は、「喫茶・飲食店」「小売業者」「サービス業」の順。

創業形態は「個店として店を構えて」が5割近くで、以下「商店街の空き店舗」「インターネットを利用」「イベントや市などへの出店」が1割強で続く

創業形態は、「個店として店を構えて」が47.0%と比率が高く、以下「商店街の空き店舗」(12.0%)、「インターネットを利用」(10.2%)、「イベントや市などへの出店」(10.1%)が続いている。

創業に際して必要な知識・情報は「相談窓口」「経営計画作成知識」及び「経理・財務・金融の知識」がいずれも4割を超えている